とかち新聞
主筆 松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1ヵ月300円　1ヵ年前納3,000円

一億円農家がふたり

足寄開拓農協総会

足寄町開拓農業協同組合（遠山静組合長、組合員百七十五名）の第二十七回通常総会は、五月二十六日午前十時すぎから公民館大ホールに組合員百十一名（ほかに委任状八名）が出席してひらき、遠山組合長のあいさつにつづいて五十一年度の表彰式にうつり

△飼料販売高（単位万円）

篠 典巳　二、三〇〇
阿部正巳　一、四七三
山田三男　一、三八五
遠藤庄三郎　一、〇四九

△牛乳多量出荷（単位t）

阿部豊美　九五、二八二
島田茂治　八八、三〇三
本間六郎　八三、七七八
阿部庄二　八一、三七二
小島伍福　八〇、一四五
佐藤治六　七七、六五五
阿部富一郎　七三、〇四七

△五ヵ年以上で十万トン以上の多量出荷

木下吉雄　一六四、四五六
長南一男　一三八、四九八
佐々木仁吉　一三一、八〇〇
高橋友夫　一〇九、二五七
長田嘉市　一〇八、九九〇

△永年勤続職員

齊藤信夫　二十五年
加藤勝男　十五年
鉄野栄一　十年

の各氏に表彰状と記念品がおくられました。

ついで来賓の宮田町助役、十勝支庁長代理、長谷川道議会議長から祝辞があり、議長に阿部庄二氏、副議長に今村悦男氏を選出して議事に入り定款の一部変更など十三議案をそれぞれ原案どおり可決して、開拓総会としては珍しく午後一時すぎに閉会となりました。

前年度の事業報告の中では、厳しい経済状況の中で組合員、役職員一体となり幸いにして事業は初期計画を達成した。信用部門は金融機関のご理解を得て各関係資金を積極的に導入し、負債整理の解消をはかったが、一部には高額負債者に対する処理問題もあり積極保全の方途を講じたい。畜産事業は営農指導部分をふくめ、パーク施設その他各施設に努力を加え、乳量は前年度より約一〇％の伸び率で、さらに一層の努力で頑張っていきたい。収支面においては経常利益五百六十四万円となり内部留保受入れにより二千九百三十四万円の当期利益となり、割戻し金については自己資本増強のため、増資を認めて頂きたい、としています。

本年度の事業方針としては、生産向上の強力な指導と、これにともなう基盤整備の早期確立ならびに昭和年代となった今日、後継者が魅力のある農業、明日への明るい希望をもたせる具体的な体制づくりに努力し、各事業の計画達成には組合員の協力なくしては不可能で、組合としては管理と連係を深め、話し合いの場を通じ営農の向上と生活に直結した事業推進をはかりたい—としています。

なお、これまでに一千万円以上の個人別販売高ですでに表彰をうけた人々の五十一年度の総合販売高は三千万円台が五名、二千万円台が十一名、一千万円台が十五名と大型経営ぶりが目立っており、これら三十三戸の販売内容をまとめてみると、一億四百七十七万円の斉藤敬三氏、一億三十八万円の工藤健児氏をトップに、農畜物は三千九百九十四万円、乳代は九千七百四十六万円に対して肉牛代金はなんと七億二千三百七十六万円でダントツと引き離しています。

諸税完納の町を宣言

陸別

陸別町では五月三十一日午後一時すぎから商工会館会議室に

▲青色申告会（三浦武夫会長ほか三十三名）
▲農業青色申告会（小畑茂会長ほか二十名）
▲法人部会（青辺平吉部長ほか二十八名）
▲納税貯蓄組合連合会（佐々木茂喜連合会長ほか二十三名）

に来賓、関係者などがあつまり「青色申告と諸税完納の町」の記念式をおこないました。

式は荒木総務課長の司会によって、徳光助役の開式のことば、杉田町長の式辞（写真）につづいて徳光助役から

納税の自主申告制度が創設されて二十九年、本町が青色申告制度を導入して二十五年を経過し、自主納税促進を推進するため納税貯蓄組合が設立されて二十三年に及び、青色申告の記帳を通じ経営の改善、合理化を図って今日に至り、企業の安定に寄与してきたこの制度を一層普及し自主納税意識の高揚によって諸税完納の実をあげるために「青色申告と諸税完納の町」とすることを宣言する

との宣言があって、札幌国税局長から、この度の貢献の全てに深く敬意を表するとの「表敬状」を、池田税務署長からは、当町を青色申告と諸税完納の町に指定するとの「指定書」をそれぞれ杉田町長に手渡しされました。

つづいて来賓の武田池田税務署長、近藤池田税務署副署長、船越支庁税務課長、北管内納税連合会長、前田管内青申連合会長、納税協会副会長、松谷町議会副議長、会沢商工会長、秋山農協組合長から祝辞があり、祝電の披露があって徳光助役の閉式のことばで式をおえ、このあと杉田町長のあいさつ、松谷副議長の乾杯で祝賀会に入りました。

これまで全道でこうした宣言をしたのは三十番目で管内では幕別町についで二番目で、昨年十二月十八日の陸別町議会の決議にもとづいて実現におよんだもので、なんとか町民お互い納税意識をたかめようとしています。

新婚婚礼衣裳
きものと帯は
久保呉服店
足寄町　T五—二一四八

建設工事24本発注

足寄

足寄町議会の第三回臨時会は小林町長が欠席中不在のため職務代理者の宮田助役の招集によって三日午前十時にひらき、警察署地区通信営繕用木造車庫を町が事業費の二七、五％を負担することにして、この施設を譲りうけて維持管理することを議決して、つぎの工事請負契約を承認して午前十一時四十分に閉会しました。

（単位万円、敬称略）

▲小松の沢林道開設工事　二、九二〇　大川義夫
▲背俵の沢林道開設工事　二、二八三　森本幸子
▲塩幌の沢林道開設工事　五、四〇〇　大川清治
▲静見幌線歩道工事　二、九一八　日本高圧
▲茂足寄山手通り一部舗装　一五、〇七八　東光舗道

（議会の議決を要しない一千万円以下）

▲平和生活改善センター　一、二九五　木村恭三
▲東小学校校舎整備　一六〇　西尾 毅
▲中足寄小バックネット　七二　大須賀金蔵
▲大誉地小学校屋外便所　二〇　高田工務店
▲中央通り舗装新設　一五五　日本道路
▲山手通り流末処理工事　六七六　大川義夫
▲同　舗装（その一）工事　七　日本舗道
▲同　舗装照明工事　三五五　横山友一
▲総合公園整備工事　二二〇　大坂直栄
▲足寄登道路災害復旧工事　五三三　平野雅浩
▲茂喜登牛幹線道路　一三〇　小林直道
▲芽登線一号線河川上部工　一、四七〇　釧路製作所
▲同　下部工　九五〇　杉山昇夫
▲茂喜登牛幹線一号橋上部工　一、四七〇　釧路製作所
▲同　下部工　一、六四五　杉山昇夫
▲稲倉ケ一号道路災害復旧　四八　平野雅浩
▲雨芽登線道路　一七〇　清水組
▲茂喜登牛芽登線明渠解体　一二　杉山昇夫
▲一の沢川右岸災害復旧　一三五　中川組

など二十四件、二億八千八百二十五万円の工事発注となりました。

おかしな学園都市誘致

十勝総合開発期成会

研究学園都市を十勝へ誘致するためには候補地を一本化すべきだとして、十勝総合開発促進期成会（会長太田中札内村長）では音更町に一本化を決定したものの、予定地にされた太田町内の十勝種畜牧場では農林省から労使一体となって絶対反対とあって、問題は白紙に差し戻しとなっていました。

五月二十七日の期成会の総会ではその点が付議されましたが、音更町長から「町内の問題などで話し合いで解決に努力する」とのあいさつがあったところ、足寄町の大隅議長が「学園都市と種畜牧場とが両立できるのか」と質問、帯広開発建設部長は「札幌開発局が調査したのでよくわからない」太田会長は「研究では両立するように努力するといっている」といった答弁があった程度でした。

事実は音更町の計画は種畜牧場全部をふくめているので両立はあり得ないのにもかかわらず、他の町村長や議長は「われ関せずえん」とばかりにヤボな論議はさけたようですが、地元の猛烈な反対をかかえながら期成会として陳情運動に向うという、おかしな学園都市誘致といえそうです。

千勝町村議会ソフト大会

雷雨でお流れ

十勝町村議会議長会主催の親睦ソフトボール大会は管内五地区から選抜された五チームによって五月二十八日に足寄高校グラウンドでひらきました。

第一戦はグラウンドの二面を利用して同時進行で忠類村議会と足寄町議会は十四対十一で忠類の勝ち、清水町議会と鹿追町議会は十九対七で清水の勝ち、第二戦は清水町議会と上士幌町議会で十四対一で清水の勝ちで、いよいよこれから準決勝と上士幌による三、四位決定戦にすすもうとするところで急な雷雨にたたられて試合続行は不可能となったために、アッサリとことしの大会はお流れにして、改めて今秋から五方面で予選をおこなったうえ、明年の決勝大会に臨むことになりました。

わずか定員十名の忠類村議会に二十六名の足寄町議会がホームグラウンドで一回戦で敗退とはーしかし昨年の決勝戦で相対した両チームで選手はすくないがチームワークのよさがきまったものといえます。

理事に能登氏

足寄商工会総代会

足寄町商工会（新沼芳雄会長、会員三百六十一名）の本年度通常総代会は、五月二十七日午後一時すぎから商工会館ホールに総代七十九名中五十一名が出席してひらき、新沼会長のあいさつがあって、議長に加藤芳弘氏を推して議事に入り、前年度事業報告、各会計決算を承認、本年度の事業計画、各会計予算など八議案を決定し、大道健三理事の辞任にともなう後任に能登清次郎氏を選任したあと、来賓の山本支庁商工課長、神本町議会産業委員長、高木道議支部長らの祝辞があって、午後三時に閉会しました。

高松宮ご夫妻がオンネトーへ

阿寒町からの連絡で七日に高松宮ご夫妻が足寄町の名勝オンネトーを観賞されるというので、町では宮田助役と土田経済課長、観光協会から阿倍副会長、上野理事、松崎事務局長らが現場付近まで出迎えるうちに、午前十時二十分に到着。オンネトーを眺めながらキャンプ場で下車して、すんだ湖の青さに感銘したり、珍しい植物に質問したり、気がるにカメラのシャッターを切ったりして楽しんで十一時五分にふたたび阿寒湖畔へ向いました。

おしのびの観光旅行とはいえご夫妻には男女五名のおそば付きを従えての旅行でした。

ニュースを斬る

◆…九日に通常国会が閉幕して、いよいよ参議院選の開幕へーといってもこんどの選挙は、これまでの自民、社会、公明、民社、共産の五党でも多党化といわれてきたのに、新自由クラブ、社会市民連合、革新自由連合などの新党派、無所属による、さらに輪をかけた混戦、乱戦ぶり。

◆…ここ当分は、いくら選挙をしても議席は多少へるとしても第一党は自民党、第二党は社会党であることに間違いはないもののこの二つの政党とも単独で政権を維持することはできないので、どうしても他党派との協力、妥協、連合、連立の時代に入ることになります。

白民か社会か

◆…綱領、政策の違う党派がくっついたり離れたりして政治がはこばれていく時代は、船頭ばかりが多くて日本丸はどこへいくのか政局の不安定をもたらすのは当然で、三十議席や五十議席程度の党派が乱立し合う時期をすごしたあとは、いずれは資本主義体制を守っていく政党と、社会主義体制にもっていこうとする政党とに区画整理せざるを得ない筈です。

◆…それには自民党はもっと進歩的な政党になり、社会党はもっと穏健な政党になって多数派になることで、議会制民主主義は多数決原理にもとずく政党政治なのだから、こんどの参議院選ではよりどり見どりの各党派ぶりですが、基本的には自民党か社会党かではないでしょうか。